

試料・情報利用研究計画書(概要)

研究番号	2024-1011	利用形態	共同研究		
研究題目	緑内障関連遺伝子多型のReplication研究			研究期間	2024年6月 ~ 2026年3月
主たる研究機関	東北大学医学系研究科		責任者 氏名・職	佐藤 孝太	助教
分担研究機関	東北大学東北メディカル・メガバンク機構		責任者 氏名・職	田宮 元	教授
	神戸大学		責任者 氏名・職	中村 誠	教授
	横浜国立大学		責任者 氏名・職	水木 信久	教授
研究目的と意義	この研究の目的は、緑内障にかかりやすい遺伝子を見つけて、その病気を引き起こす遺伝子の違いを特定することです。神戸大学と横浜国立大学が行った研究で見つかった候補遺伝子について、その結果が正しいかどうかを確かめるために実施します。				
研究計画概要	東北大学病院眼科で集めた正常眼圧緑内障のゲノムDNAを使い、ジャポニカアレイを用いて遺伝子の情報を調べます。また、倫理委員会の承認を受けた研究計画「眼疾患に関連する遺伝子多型の解析(2021-1-184)」で集めた遺伝子の情報も使います。 比較のために、東北メディカル・メガバンク計画の参加者の遺伝子情報を使用します。研究で見つかった候補の遺伝子マーカーを使い、関連性を調べ、その結果を要約して、共同研究機関に提供します。要約された結果は、共同研究機関が行うメタ解析に使われ、研究の結果と統合されます。				
利用試料・情報	対象:東北メディカル・メガバンク事業の地域住民コホート調査、および三世帯コホート調査に参加した者 3,000例 試料:なし 情報:ゲノム情報(SNPアレイ情報)、基本情報(年齢、性別)、健康調査情報(緑内障既往歴)				
期待される成果	本研究の成果は、特定遺伝子の遺伝型を安価に測定し将来の疾患リスクを予測しうるものであり、将来的に本疾患を発症するリスクが高い者を発症前に予測し、受診喚起などを行うことで失明者の減少に貢献できます。本研究は高齢化や医療費のひっ迫が喫緊の課題である本邦において社会的意義のある研究です。				
倫理審査等の経過	2024年5月 東北大学大学院医学系研究科倫理委員会				
倫理面、セキュリティー面の配慮	本研究は既存の情報を用いた解析であり、新規に試料・情報を収集することはしません。本研究に用いられた情報の二次利用が必要な場合は、情報を得た元々の研究の計画に従います。 本研究で取り扱う情報等を廃棄する際は、匿名化したまま廃棄します。紙媒体の資料はシュレッダーで裁断し、電子記録媒体は読み取れない状態で廃棄、パソコン内のファイルは再現できない形で適切に消去します。				
その他特記事項	この研究は運営費交付金及び寄附金により実施します。				
(事務局使用欄)	*公開日 2024年7月23日				